電波時計について

電波時計とは

正確な時刻およびカレンダー情報をのせた標準電波を受信することにより、自動的に表示時刻を修正し正確な時刻をお知らせする時計です。

標準電波とは

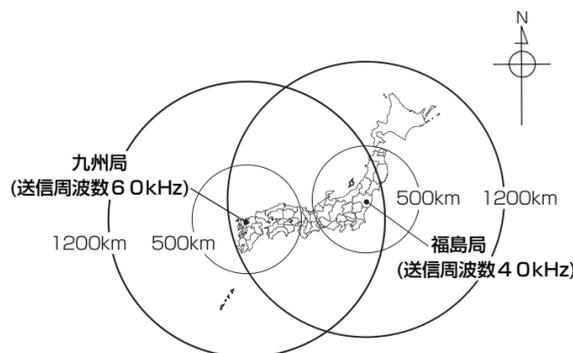
日本標準時をお知らせするために、情報通信研究機構が運用している電波です。

※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波送信所は、福島県の「福島局:おおたかどや山標準電波送信所」と佐賀県と福岡県の県境にある「九州局:はがね山標準電波送信所」の2ヵ所あります。

標準電波の詳細については、情報通信研究機構のホームページをご覧ください。(http://jjy.nict.go.jp)

受信可能な範囲

送信所からおよそ約1200kmの範囲です。ただし、受信範囲であっても電波障害(太陽活動、季節、天候、置き場所、時間帯(昼/夜)あるいは地形や建物の影響など)により、受信できないことがあります。

- ○この時計は福島局と九州局に対応しており、標準電波を自動選択して受信します。
- ○日本以外の標準電波は受信できません。海外で使用した場合、まれに日本の標準電波を受信して、日本の時刻を表示したり、誤った時刻を表示することがありますので、電波受信スイッチをOFFにしてください。
- ○送信所の定期点検や落雷などにより、標準電波の送信が止まることがあります。

ご使用場所について

電波の受信しやすいところでご使用ください。

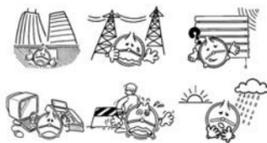
この時計は標準電波を受信することにより、時刻を修正しますので、電波の受信しやすい部屋の窓際などでお使いください。

電波を受信しにくい環境について

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- ●工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所。
- ●金属製の雨戸やブラインドの近くビルの地下など
- ●高圧線、テレビ塔、電車の架橋近く
- ●朝夕の時間帯、雨天のとき
- ●家電製品やOA機器の近く、スチール机等の金属製家具の上や近く

ご使用場所の注意

注意　禁止

下記のような場所では使わないでください。機械やケース、電池の品質が低下し、精度不良や時計、電池の寿命が短くなります。

- ●温度が+50℃(50度)以上になる所。例えば、長時間直射日光のあたる所。暖房器具等の熱風や火気に近い所。
- ●温度が−10℃(氷点下10度)以下になる所。(プラスチックの部品や電池の劣化が起きることがあります。)
- ●浴室など、湿気の多い所。
- ●ほこりが多く発生する所。(空気中のちり等が機械部にたまって、時計が止まることがあります。)
- ●テレビ・OA機器・オーディオの近くなど強い磁気が発生する所。(磁力の影響で、時計の進みや遅れが生じたり、止まることがあります。)
- ●車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所。
- ●温泉場など、ガスの発生する所。
- ●多くの油を使用する所。(霧状になった油分がケースや機械部に付着し、汚れや止まりの原因になります。)
- ●プラスチック製の時計の場合、軟質のポリ塩化ビニルに長い間、直接ふれさせておくと、相互に色移りしたり、付着することがあります。

お手入れについて

長くご愛用いただくために、2〜3年に一度の点検・調整(有料)をおすすめします。販売店にご相談ください。

- ●汚れがひどい時は、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、やわらかい布に少量つけてふき取り、その後、からぶきしてください。
- ●ケースなどのよごれ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。
- ●時計を掛けたとき、静電気により時計および壁面が汚れることがありますので定期的に掃除をしてください。

ご使用上の注意

ここに示した注意事項は、あなたや他の人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。必ず守ってください。

表示内容を無視して、誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、下記の表示で区分して説明しています。

警告

この表示は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

注意

この表示は、「傷害を負う可能性または物的傷害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、下記の表示で区分して説明しています。(表示の一例です。)

禁止

この表示は、してはいけない「禁止」内容です。

強制

この表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

小さな部品は、幼児の手の届く所に置かないでください。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。

分解禁止

分解したり改造しないでください。故障の原因になります。

注意

時計は精密機器です。落としたりして衝撃を与えないでください。故障や破損の原因になります。

アルカリ電池について

警告

- ●電池からもれた液が眼に入った場合は、失明するおそれがありますのですぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けてください。また、皮膚や衣服に付着した場合は、水で洗い流してください。
- ●ショート、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。液もれ、発熱、破裂の原因になります。

電池一般について

注意

電池の使い方を間違えると、発熱、破裂の危険や液もれにより人体や時計周りを傷めることがあります。

- ●+(プラス)、−(マイナス)を逆に入れないでください。
- ●指定された新しい電池を使用してください。
- ●古い電池と新しい電池、種類の異なる電池の混用をしないでください。
- ●使い切った電池は速やかに取り出してください。
- ●長期間使用しない場合は、電池を取り出してください。
- ●電池交換時は、電池と時計の端子(接触部)の汚れを落としてから入れてください。

■液晶について

注意

表示部が破損して液晶が手などについた場合は、石鹸で洗い流してください。目や口に入った場合は、きれいな水でよく洗い流し、直ちに、医師の治療を受けてください。

CITIZEN

電波時計(デジタル掛置兼用時計) 取扱説明書

取扱説明書番号　D014-CXXZ

〜 製品の特長 〜

標準電波を受信して正しい時刻に修正

温度と湿度を表示

電池の交換時期をお知らせします

お買い上げありがとうございます。

○ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

○この取扱説明書はお手元に保管し、必要に応じてご覧ください。

発売元 **リズム時計工業株式会社**

本社　〒330-9551　埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番12

http://www.rhythm.co.jp

アフターサービスについて

この時計のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。次の記載事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。

●修理部品の保有について

この時計の修理用性能部品(電子回路、歯車等)は製造打ち切り後、7年間を基準に保有しています。ただし、外装部品(ケース・文字板等)の修理には、類似の代替品を使用させていただくこともあります。または現品交換させていただくことがあります。

●修理可能期間について

無料保証期間が過ぎても、この時計の性能部品保有期間中は、原則として有料修理が可能です。ただし、修理には販売店と修理工場の往復運賃・諸掛り費用も加わり、商品により修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。

●転居または贈答品の場合

転居または遠隔地からの贈答品で、お買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、お客様相談室にご相談ください。(保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です。)

アフターサービスなどについてご不明なことがありましたらお客様相談室にお問い合わせください。お問い合わせに際しては、製品番号「8RZ063」をお伝えください。

お問い合わせ先

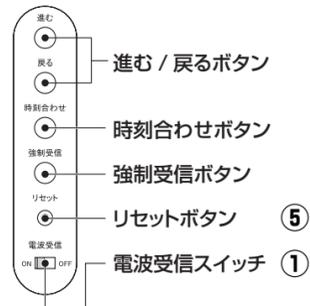
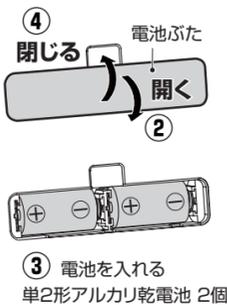
■お客様相談室　フリーダイヤル 0120-557-005

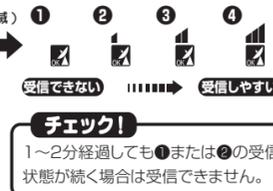
受付時間 9:00 〜 17:00
(土日、祝日および当社休日を除く)

Y0705

1. 時刻の合わせ方 （はじめてお使いになるとき）

図は操作説明用ですので、実際の商品と異なることがあります。

【裏面操作部】

【電池の入れ方】

【受信の流れと表示】

〈リセットボタンを押した直後〉

（受信成功の表示例）
受信マークは24時間以内に受信に成功しているときに点灯します。

（受信失敗の表示例）
時刻・日付・曜日は正しくありません。

アドバイス

テレビ、蛍光灯などの家電製品やパソコンなどのOA機器からのノイズにより、電波を受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。場所を変えてからリセットボタンを押し、再度受信を試みてください。
電池を入れ替えたときもリセットボタンを押して、窓際などで電波の受信をさせてください。

① **電波受信スイッチをONにする**
② **裏面の電池ぶたを取り外す**
③ **電池を入れる**
図のように正しく入れてください。
電池の向きを逆に入れると発熱、破裂の危険や液もれの原因になります。
④ **電池ぶたを取り付ける**
⑤ **リセットボタンをボールペンの先などで押す**
リセットボタンを押すと受信を開始します。

標準電波の受信には最長21分程度かかりますので、電波の受信しやすい窓際などにおいてください。

⑥ **受信結果を確認する**
「受信の流れと表示」参照
受信マークが点灯：受信に成功
「2. 時計の設置」へ進む
受信マークが消灯：受信に失敗
「電波を受信できない場合」へ進む

▶電波受信スイッチ

電波受信スイッチをONにすると定期的に標準電波を受信し、受信に成功すると時刻およびカレンダーを自動的に修正します。
手動で時刻合わせをして使用するときは、OFFにしてください。

▶強制受信とリセット操作

- 強制受信は、場所を移動したときなど電波の受信を試みたいときに使います。

※手動で時刻合わせをしているときは強制受信操作はできません。

- リセットボタンは、電池を入れた直後や静電気などにより誤作動したときに押します。リセット直後は、2007年1月1日午前12:00に初期化されます。

▶温度･湿度表示

センサーが時計内部にあるため、表示に反映するまでには時間がかかります。
測定範囲を超えた場合の表示
温度:「HH.H」50℃より高温 「LL.L」−9.9℃より低温
湿度:「HH」95%を超えた 「LL」25%未満
湿度は温度が5℃未満または50℃を超えると「 -- 」表示になります。
㊟本製品は室内用ですので、室内の温度･湿度の計測以外の目的では使用できません。また厳密な温度･湿度管理を行う用途には適していません。

静電気による誤作動

静電気により、誤作動し正常に機能しなくなることがあります。このようなときはリセットボタンを押してください。

電波を受信できない場合

◆朝までそのままにしておく
一般に夜間は電波状態が良くなるので、一晩そのままにしておくと受信できる可能性が高くなります。手動で時刻を合わせて1〜2日様子をみてください。

◆場所を変える／受信をやり直す
電波の受信しやすい窓ぎわや、電波の送信所（取扱説明書の日本地図を参考）に、なるべく時計の正面または裏面が向くように設置し、リセットボタンを押してください。

◆手動で時刻を合わせて使用する
電波を受信できない場所でご使用になるときには、手動で時刻合わせをしてください。手動で時刻合わせをすると時間精度はクオーツ精度になります。手動で時刻を合わせて使用する場合は、誤受信を防止するために電波受信スイッチを「OFF」にして使用することをお勧めします。

●手動での時刻の合わせ方

下の操作例を参考にして、カレンダーおよび時刻を合わせてください。
○戻るまたは進むボタンを押してすぐ離すと1つ単位で戻ったり進んだりします。
○戻るまたは進むボタンを押し続けると速く数値が変わります。

操作例 西暦2008年12月25日 午前10時36分に合わせる

①時刻合わせボタンを西暦年が点滅するまで約2秒間押し続けます。

②戻るまたは進むボタンを押して「年」を「2008」に合わせ、時刻合わせボタンを押します。

③戻るまたは進むボタンを押して「月」を「12」に合わせ、時刻合わせボタンを押します。

④戻るまたは進むボタンを押して「日」を「25」に合わせ、時刻合わせボタンを押します。

⑤戻るまたは進むボタンを押して「時」を「10」に合わせ、時刻合わせボタンを押します。
※午前、午後の表示に注意

⑥戻るまたは進むボタンを押して「分」を「36」に合わせ、時刻合わせボタンを押すと手動時刻合わせは終了します。
※戻るまたは進むボタンを押すたびに00秒にセットされます。

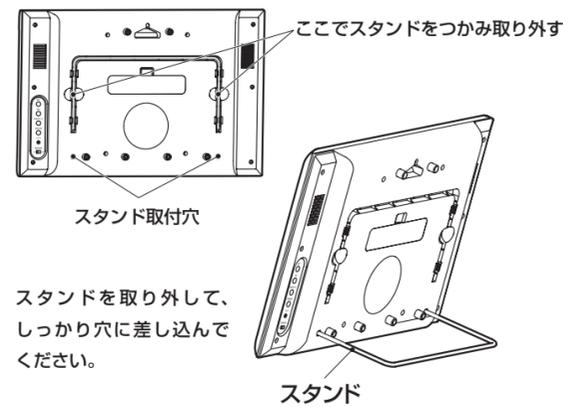
◆曜日は自動的に設定されます。
◆電波受信スイッチが「ON」のときは、手動で時刻合わせをしても、自動受信を行い、受信に成功すると時刻･カレンダーを修正します。
◆約30秒間ボタン操作をしないと、表示されている日付･時刻が設定され時刻表示になります。

2. 時計の設置

掛時計としてご使用になるときは、確実に掛けてください。時計の掛け方が不適切な場合、時計が落下する危険があります。
時計を掛けたときは、上下、左右に軽く動かして、確実に掛かっていることを確認してください。

- 付属の木ねじを使用できる場所は、木の柱または木質の厚い壁面です。
- 木ねじは下図の通り、壁面にしっかりねじ込んで固定してください。

- 上記以外の場所（石膏ボード、コンクリートなどの壁面）に掛ける場合は、壁の材質･構造と時計の重量に合った、市販の掛具をご使用ください。その際、両面テープ式や吸盤式は時計が落下する危険がありますので、使用しないでください。
- 掛けた状態で時刻合わせなどの操作をすると、落下する恐れがありますので、時計を取り外してから操作をしてください。

置時計としてご使用になるときには、スタンドを図のようにしてください。
※水平で振動などが少ない安定したところに設置してください。

- 無理な荷重を加えるとスタンドが外れたり、曲がったりすることがあります。
- スタンドをハンドル代わりにして持ち運びすると抜けることがありますので、持ち運びに利用しないでください。

3. 電池交換時期のお知らせ

電池の交換時期になると、▭ マークが表示されます。このマークが表示されたら、お早めに電池を交換してください。

電池からの液もれに注意

時計が止まった状態で、電池を入れたままにすると、電池からの液もれにより、時計や家具などに損傷を与えます。表示が薄くなったり、時計が止まったら電池を取り出すか、電池を新しいものに交換してください。

使用する電池の条件 重要

電池を長期間使用しますので、つぎのことをお守りください。条件を満たさない電池を使用すると、電池からの液もれにより時計や壁面などに損傷を与えることがあります。また、製品仕様より電池寿命が短くなることがあります。
①「使用推奨期限」が電池交換時より3年先以上の年月表示があるもの 例. 2010年6月に交換 06-2013より先の「使用推奨期限」表示のある電池
② 使用するすべての電池が同じメーカーで同一の「使用推奨期限」のもの
③ 未使用の電池
④ 単2形アルカリ乾電池

「使用推奨期限」とは、
日本の規格で、電池が使用されないで保管されていた場合に、規格で定められた性能を発揮する期限を定めたものです。電池本体の側面または底部とパッケージに表示されています。
「使用推奨期限」の表し方は、月年の順で表示しています。
使用推奨期限が 2013 年6月の場合の表示例
① 06-2013 ② 06-13 いずれも同じ年月

おもな製品仕様

項目	仕様
時 間 精 度	●標準電波の受信に成功している場合（受信直後） 表示精度 ±1秒以内 ●標準電波を受信しない場合 平均月差 ±30秒（常温中のクオーツ精度）
使用温度範囲	−10〜+50℃ （液晶表示判読可能温度範囲0〜+40℃）
使 用 電 池	単2形アルカリ乾電池 （JIS規格 LR14） 2個
電 池 寿 命	約3年間
そ の 他	標準電波 標準電波受信による時刻修正 福島局／九州局自動選択 自動電波受信回数 1日8回 標準電波受信 ON/OFF切替 カレンダー 2000〜2099年 西暦､月日､曜日 時刻表示 12時間制 温度 -9.9〜+50℃ ±2℃ 湿度 25〜95% ±10%（温度が5〜50℃のとき） 電池の交換時期お知らせ機能

○付属の電池は工場出荷時に入れていますので、電池寿命が製品仕様より短い場合があります。
○液晶表示板は５年を過ぎると、コントラストが低下して表示が見にくくなることがあります。
○０〜４０℃の温度範囲を超えると、液晶表示が見えにくくなることがあります。
○製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

付属品
単2形アルカリ乾電池 2個 木ねじ 1個 取扱説明書 本書 保証書 1枚